

化学委員会・物理学委員会合同結晶学分科会（第25期・第5回）、化学委員会 IUCr 分科会（第25期・第5回）合同分科会議事録

日時：令和3年12月24日（金） 11時10分～12時10分

場所：Hybrid 会議（日本学術会議6C-1会議室+zoom）

出席者：秋山修志[†]、阿久津典子^{†,*}、奥部真樹^{†,*}、片岡幹雄^{†,*}、上村みどり^{†,*}、栗原和枝^{†,*}、
黒田玲子^{†,*}、小島優子[†]、小林昭子[†]、佐々木 園[†]、菅原 正[†]、菅原洋子^{†,*}、高田昌樹^{†,*}、
高原 淳^{†,*}、難波啓一^{†,*}、西野吉則^{†,*}、森吉千佳子^{†,*}

欠席者：井上 豪^{†,*}、富安亮子^{†,*}、野田岳志[†]、山下敦子[†]

（[†]結晶学分科会委員、*IUCr 分科会委員）

<配布資料>

資料1：IUCr Commission Member

資料2：国際結晶学連合広報資料

議事

1. 化学委員会 IUCr 分科会

(1) IUCr2021 について、高田 IUCr 分科会委員長より以下の報告があった。

- ・IUCr2021（プラハ）はハイブリッド開催されたが、参加者は1638名で、日本からは134名の参加があり、独、米、英に続き4番目に多かった。
- ・総会には、日本学術会議の代表派遣として栗栖、河野、菅原、藤間（敬称略）の4名が参加し、代表権を行使した。新執行部として、会長、副会長ともに日本が支持した候補が選出された。また、IUCr2026はカナダのカルガリーで開催することが決定した。IUCr2029にはベルリンが、IUCr2032には西安が立候補を予定している。新規の科学分科会として Commission on diffraction microstructure imaging が設置されることが決定した。日本は21科学分科会のうち20に関与することとなった（配布資料1）

(2) IUCr2023 の準備状況について委員長より報告があった。

(3) 日本学術会議の加盟国際学術団体の見直し審査があり（各期に実施）、「加入国際学術団体に関する調査」と「資料（IUCr）」（配布資料2）を提出したことが委員長より報告された。

2. 物理学委員会・化学委員会結晶学分科会、化学委員会 IUCr 分科会（共通議題）

(1) 連絡会議について以下の報告がなされた。

① 菅原洋子結晶分科会委員長より、今期から設置された連絡会議についての説明があった。

- ・日本学術会議の意思の表出には、中長期的視点と俯瞰的視野と分野横断的な検討が必要であることから委員会等連絡会議を設置することとした。
- ・現在、以下の3つの連絡会議が設置されており、すべてに参加している。
 - カーボンニュートラルに関する連絡会議（担当：井上（IUCr 分科会）、小島（結晶学分科会）
 - パンデミックと社会に関する連絡会議（担当：菅原（結晶学分科会）

持続可能な発展のための国際基礎科学年 2022 (IYBSSD2022) 連絡会議

(担当：井上 (IUCr 分科会)、上村 (結晶学分科会))

②「カーボンニュートラルに関する連絡会議」について、担当の小島委員より報告があった。

・第一回会議が9月16日に開催された。カーボンニュートラルにむけて中長期的視点と俯瞰的視点にたち情報交換、連携、成果発信を目的に活動するなどの連絡会議の役割と方向性について説明があった。6つのカテゴリー細分があり、結晶学はカテゴリーDの「カーボンニュートラルのための学術、テクノロジー開発」に入ること、IUCr/結晶学分科会としての取り組み方針について説明があった。

③「パンデミックと社会に関する連絡会議」について、第一回連絡会議に代理出席した西野結晶学分科会副委員長より報告があった。

・第一回会議が12月1日に開催された。現在の COVID-19 への対応も含めた、パンデミックに絶えられるレジリエントな社会に向けた議論をしていくことを趣旨とするとの説明があった。前身となる日本学術会議幹事会コロナ対応 WG のメンバーがコアとなり、準備を進めている。

・本分科会としても、今年のシンポジウム開催を受けて、連絡会議を通じて何ができるかを引き続き検討していく。

④「持続可能な発展のための国際基礎科学年 IYBSSD2022 連絡会議」について、第一回連絡会議に代理出席した菅原委員長より報告があった。

・第一回会議が11月22日に開催された。初めに本連絡会議設置提案内容の説明があった。IYBSSD2022 の今後の予定としては、2021年12月2日に国連決議、2022年7月1日に UNESCO でオープニングセレモニーが行われ、2023年夏にクロージングとなる予定。連絡会議活動実現のため4つの WG (運営、広報、産業界連携、学術フォーラム企画) が設置され、結晶学および IUCr 分科会からは、広報 WG に高原委員、学術フォーラム企画 WG に井上委員、上村委員を推薦した。

・本分科会としては、来年5月に分科会を開催し、関連シンポジウムの企画等の活動を具現化させていく。

3. その他

(1) 日本学術会議総会について、菅原結晶学分科会委員長より以下の報告がなされた。

・学術会議問題について、12月3日に改めて内閣総理大臣に要望書を提出した

・学術会議の意思の表出のカテゴリーとして、要望、声明、提言、報告、回答に加えて、新に見解というカテゴリーを設ける。

・会員選考についてプロセスの透明性を重視する選考方法を検討中であり、令和4年度の選考に採用予定。

・学術研究振興に関わり、25期はマスタープランを策定せず、新しい枠組みを立ち上げる予定。

・「政府の科学的助言に対する国際会議 (INGSA2021)」がモンテリオールであり、学術会議若手アカデミー副代表が代表派遣の形で参加したことが報告された。「政府の科学的助言」の充実は、先に本分科会でまとめた「記録」で課題として残された事項である。黒田委員より、アジア地区の運営委員会に参加していることが報告され、今後、INGSA の活動に注目していくこととした。

(2) 今後の分科会開催予定について確認した。

・ IYBSSD への対応についての協議などを行うため、5月に開催する（予定）。